



SECOND
HARVEST
セカンドハーベストジャパン

Harvest News

2007 summer edition

Food for all people

www.2hj.org

目次

女性や子供への食糧供給 4年間ボランティアを 務めたジェイソン	1 2
お腹をいっぱいにして就寝 グローバル・フードバンキング・ ネットワーク	3 4
モルガン・スタンレーと セカンドハーベストジャパン フードバンクスタッフの一日 ニュースバイト	5 6 8

お問い合わせ先

〒111-0053
東京都台東区浅草橋4-5-1
水田ビル1F
E-mail:
info@2hj.org
volunteer@2hj.org
HP: www.2hj.org
Tel: 03-3838-3827
Fax: 03-3863-4760

お金の寄付

郵便口座
名義: FBJ
口座番号: 00120-7-171027

銀行口座
銀行: 三菱東京 UFJ 銀行
用賀出張所 (523)
口座種類: 普通
口座番号: 3647565

2HJは女性や子どもたちに食料を届けています

文章: 大原悦子

セカンドハーベストジャパン(以下2HJ)が食べ物を届けている施設の一つに、女性と子どものための民間シェルター(避難所)があります。シェルターはドメスティック・ヴァイオレンス(DV)や人身売買の被害を受けた女性たち、さまざまな事情からホームレスとなってしまった女性たちを受けいれています。執拗な夫らが追跡してくる恐れがあるため、住所や名前など詳しい情報は明らかにしていません。

ここでの食事は三食とも、料理上手な寮母さんが作っています。二週間に一回、2HJ

から食品が届くと、その食材にあわせた献立が考えられます。たとえ同じ野菜が大量に届いても、漬け物にするなどして、どの材料も無駄なく使い切るそうです。

「日用的な食品は買っていますが、2HJのおかげで献立にバリエーションができるんです」とスタッフはいいます。また、これらの施設には行政からの支援がほとんどなく、おもに会員からの寄付で運営しているため、「月に数万円、食費を節約できるのはほんとうに助かります。その分、赤ちゃんのミルクやオムツ代など、ほかの支出にあてることができるのです。」

食べ物は物理的な面だけでなく、精神的な面でも入所者の力になっています。夫から暴力を受けたり、厳しく生活を規制されてきた人たち。あるいは、食費を切りつめて好きなものを食べることができなかった人たち。たくさんのお食事を前に「自分で選んで、好きなだけ食べていいのよ」といわれることは、彼女たちにとっては何よりもうれしいことだ、といいます。



必要な栄養 シェルターにおいて、新鮮な野菜やパンは歓迎されます。写真: パトリシア・デッカー

次のページへ

セカンドハーベストジャパンについて

フードバンクは、市場に出すことはできなくとも、人々が消費するのに十分な安全性をもった食品を処理する代替案です。セカンドハーベストジャパンは、これらの食品を炊き出し、児童養護施設、高齢者、緊急シェルター、母子家庭、ホームレス、移住労働者などに再配分しています。食品の小売店、製造業者、輸入業者は販売することができず廃棄しなければならない食品の問題に直面しています。企業が廃棄費用を削減するとともに、地域貢献を果たす手助けをするのがフードバンクです。セカンドハーベスト ジャパンは2002年に非営利活動法人格を取得しています。その活動は米国におけるフードバンクネットワークの成功例である America's Second Harvest を模範としています。



アパートを見つけ、自立に向けて歩みだしたシェルターの“卒業生”たちには、希望すれば2HJのハーベストパントリー（宅配便で届けられる緊急食料援助）が届けられます。ほとんどの人が生活保護を受けながらの生活を送っているため、育ち盛りの子どもを抱えたシングルマザーにとっては、食料は「いくらあってもありがたいもの」なのです。

また、表参道のレストラン「フジマズ」は毎週一回、入所者たちのためにお弁当を無償でつくっています。2HJのボランティアがそのお弁当をピックアップし、お正月だろうが、お盆だろうが、欠かさず届けています。「今日はどんなお弁当が届くのか」みんな楽しみに待っているそうです。

食べ物は、ただ食欲を満たすものではありません。これまでつらい思いをしてきた女性たちを、ときになぐさめ、ときに「尊厳」や「自立」を取り戻すささやかなあと押しになっていることを、スタッフの話から感じました。

4年間ボランティア・コーディネーターを務めたジェイソン・クエさん： 「日本での生活は2HJ抜きには語れません」

文章：大原悦子

毎週土曜日に上野公園で行われている炊き出しには、準備から後かたづけまでのべ30～50人のボランティアがかかわっています。ジェイソン・クエさんはパトリシア・デッカーさんとともに、大勢のボランティアたちのコーディネーターを務めてきました。大学院進学のため7月にアメリカに帰国したジェイソンさんに話を聞きました。

大原：コーディネーターって何をするのですか？

ジェイソン：「必要な人数が必要な時間に必要な場所にいるよう、調整するのがぼくたちの仕事です。まず、メーリングリストに登録されているボランティアおよそ600人に毎週火曜日、翌週の活動案内を送っています。返信を待って、その週に入ってくる食品の量や団体の参加があるかないか、などの状況に応じて、人数や仕事の割り当てを決めるのです。土曜日にはボランティア活動リーダーもいるので、彼らと協力しあって、ボランティアたちに仕事の手順や注意点などを現場で指示しています。「ごはんをもっとふやした方がいい」とか「野菜がたくさんあるから、スープにいれよう」など、メニューも細かく点検しながら、活動がスムーズに進むよう、全体を見渡しています」

大原：ジェイソンさんと2HJとの出会いは？

ジェイソン：「ソフトウェア会社のコンサルタントをしていた4年前。ひたすら仕事、仕事で、ときに終電で家に帰る生活に、ふと何かが足りない、と気づいたのです。もっと社会にかかわりたい、何か役に立つことをしたい。そう

思っていたところ、個人とNPOとを仲介する活動をしている団体から2HJを紹介されました」

大原：まだ会ができて間もないころですね？

ジェイソン：「当時は『フードバンク ジャパン』という名前で、事務所も倉庫もありませんでした。最初のころは隅田公園でパンや野菜などを並べて、公園野宿者たちに配るだけ。でも、まだ十分食べられるのに捨てられる運命にあった食品を、必要としている人たちに役立てるフードバンクの活動にやりがいを感じました」

大原：なぜコーディネーターに？

ジェイソン：「ボランティアに参加して間もなく、（理事長の）チャールズがボランティアを調整する人を探している、と聞き、ぼくにできることなら挑戦してみよう、と。まさか自分が毎週のように活動にかかわることになるとは、当初は思ってもいなかったのですが」

大原：4年間で2HJは大きく成長しました。

ジェイソン：「事務所と倉庫ができ、ハーベストパントリー

次のページへ



活動も始まりました。土曜日の活動の場も隅田公園か

最初のころは隅田公園でパンや野菜などを並べて、公園野宿者たちに配るだけ。

ら上野公園にかわり、いまではごはんにみそ汁、サラダや煮物など、あたたかい食事を毎週およそ400人～500人に提供できるようになりました。会のこの成長ぶりには驚いています。ボランティアも増えていますよ。ときにはお断りしなければならぬほど。日本人の参加が目立ってきているのがうれしいですね」

大原: ジェysonさんにとってこの4年間は。

ジェyson: 「2HJの活動を通じてよき友人にも大勢恵まれたし、ぼく自身、人間的に成長することができたと思っています。以前は一人で仕事をする方が好きだったの

ですが、コーディネーターの仕事をするようになって、多くの人と力を合わせて活動する楽しさ、大切さを知りました。日本での生活は2HJ抜きには語れないほど、大きな存在でした。チャールズをはじめとするスタッフ、ボランティアたちの熱意、尽力には本当に頭が下がります」

大原: ボランティアにひとこと。

ジェyson: 「忙しいからめったに参加できない、という人多いと思うんです。ぼくも「土曜日に早起きたくないな」と思ったことが何回かありました。でも、ほんの少しだけがんばってみてほしい。たとえ何かを犠牲にしても、1回でも多く参加してみれば、きっと何か得るもの、発見するものがあるのではないのでしょうか」

ジェysonさん、長い間お疲れさまでした！

お腹をいっぱいにして就寝

文章: ハントリー・ニコラス

5月下旬のある日の午後、外は小雨がぱらつき、電車がガタンガタンと通り過ぎていく。セカンド・ハーベスト・ジャパン(2HJ)の事務所で、このところスペースをどんどん占めるようになってきた缶詰やさまざまな食料に囲まれてハーベストパントリーのコーディネーター、ミッシェルライアンは、インタビューに答えてくれた。これらの食料は、受給者の元へ送られていく。受給者がフードセキュリティを確保できるように送られるわけだが、彼らは適切な時間に配達されるこれらの食品を頼りにしている。受給者のほとんどは、社会福祉サービスを提供する団体から2HJに紹介されてきた人たちで、難民や母子または父子家庭それに低所得世帯および移住労働者である。30分のインタビューのなかで、2005年の暮れに土曜日の炊き出しボランティアとして2HJに初めて来たときの状況と、その後2HJ、2人目の常勤スタッフになった経緯を話してくれた。

ミッシェルが育った家庭には、2つの文化があり、言葉も2カ国語が話されていた。父親の仕事の関係で、未知の国に4、5年おきに引っ越さなければならなかった。さまざまな国で生活してきたが、今まで暮らした国のなかでどこよりも生活水準が高い国が日本であると信じて疑わない。逆に、啞然とさせられるほどの貧困や苦難を目の当たりにした国が、フィリピンなどの東南アジアの国であった。しかし、堪能な日本語力を活かすために数



やりくり ミッシェルは、フードセキュリティーを欠く家庭や個人に緊急食料を送ります。写真: ハントリー・ニコラス

年前から日本に住み始めると、日本には別の側面があることに気づいた。毎日通勤していると、日本社会の上辺の繁栄が徐々に剥がれ落ちて行き、実は驚くべき二面性があることが露わになってきた。繁栄の裏には、世界でその裕福さを誇る日本にも、フードセキュリティを欠くためにお腹をすかしたまま寝床に入らなければならない人がいるという現実があった。

「フードセキュリティが確保されとなれば、自活へ向けて次に何をすればよいか集中できます」

次のページへ



食品が並ぶ棚 パントリーは、新しく寄付されたもので一時的にはせまくなりますが、食品は受給者のニーズに合わせたパッケージのために、すぐに飛ぶように無くなっていきます。写真：パメラ・ラバシオ

この驚くべき事実に目が向いたことから、その苦難つまり隠れた苦難を和らげるために自分にできることは何かを考えるようになった。つまり、ハムレットの言葉を借りると、「寄せくる怒濤の苦難に敢然と立ち向かい、闘ってそれに終止符をうつ」と決心したのである。

ミッシェルが使用する戦いのための道具は、右手と左手である。美味しいだけでなく健康にもよい食料を箱詰めするために使用するのである。食料を選ぶときは、受給者の状況を勘案した上で行う。ハラールや菜食主義などの食事に関する決まりに従っているかどうかや、糖尿病や貧血それに痛風などの健康に関する制限に触れないようにしなければならない。食料はどのように調達するのかを尋ねたところ、「あらゆる食事の制限に対応するためにさまざまな種類の食料が必要になるので、フードドライブはきわめて重要です」と教えてくれた。さらに、「エージェントから常に進捗状況の報告を受けています。受給者にとっては、フードセキュリティが確保されるとなれば、自活へ向けて次に何をすればよいか集中できます」と答えてくれた。

ハーベストパントリーを切り盛りするために惜しみなく努力するミッシェルには脱帽である。本当なら、空腹のまま布団に身をくるまなければならなかった人が、ハーベストパントリーのおかげで健康的な夕飯を取ることができる。そのような人が昨日の晩どこかにいたのです。

※本文中にあるハムレットの台詞は、小田島雄志の訳を引用しました。

グローバル・フードバンキング・ネットワークから知恵を得て

文章：チャールズ・マクジルトン

セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)は、「アメリカズ・セカンドハーベスト」(A2H)と名前が似ているため、多くの方は私たちが米国の国際的なネットワークの地方支部であると想像するかもしれません。確かに私たちはA2Hと似たようなビジョンを共有していますが、実際はまったく独立した団体です。2000年、私たちは日本でフードバンクをどのように始めたらいいかについてのガイダンスを求め、A2Hに初めてコンタクトを取りました。皆さまの中にはお会いしたことのある方もいるかもしれませんが、クリス・レブストックは私たちのために惜しまず時間を割いて、マニュアルや他の情報を提供してくれました。実際彼は、2001年及び2003年にシカゴのフードバンクを現地訪問するのを手助けしてくれたり、カリフォルニア州ハリウットのナショナル・フードバンク会議に私たちを招待してくれたりしました。いずれの経験も、フードバンキングの可能性を理解するのに非常に役に立ちました。

自分たちの国でフードバンクを設立するためにA2Hに援助を求めているのは日本だけではありません。例えば2001年に私たちがA2Hにコンタクトを取っていた同時期に、アルゼンチンでもA2Hの援助により同国初のフ

ードバンクが設立されようとしていました。アルゼンチンは今では国内外に15のフードバンクのネットワークを抱えています。このようにA2Hは各国のフードバンク発展のために最大限の援助を提供してきた一方で、財政的支援など多くの部分では力が限られていました。

このニーズに対応し他国のフードバンクの成長を助けるために、A2Hの前CEOは2006年に、グローバル・フードバンキング・ネットワーク(GFN)を設立しました。クリス・レブストックもGFNに加わり、日本における非営利

「世界中のフードバンクは食品の保管能力と物流の問題に直面している」

セクターの立場、特にフードバンキングの発展についてより深く理解するために、同年秋に私たちを訪れました。彼はGFN理事会に報告書を提出し、私たちをこのネットワークのメンバーとして推薦してくれました。

この結びつきによる最初の恩恵のひとつは、テキサス州サン・アントニオで開かれたGFNの初のワークショップに参加者として招待されたことでした。イスラエル、アルゼンチン、コロンビア、グアテマラ、メキシコ、カナダ



そして日本といった各国のフードバンクがこのワークショップに参加しました。どの国のフードバンクも比較的新しく、それぞれ異なる発展段階にあるため、彼らと情報やストーリーを共有できるのはすばらしいことでした。そしてすぐに明らかになったのは、私たちが非常に似た問題に直面しているということでした。つまり食品の保管能力と物流の問題です。

GFN は米国の食品提供企業との結びつきを活用して、それらの企業がビジネスを展開する他国でも、これまで

行ってこなかった食品提供を検討してくれるよう働きかけたいと考えています。また GFN は、ネットワークのメンバーであるフードバンクに対して必要に応じて支援を提供してくれる多数の専門家を備えています。私たちの担当者も食品業界で25年以上の経験を持ち、シカゴ・フード・デポジトリ（フードバンク）の10余年来の理事会メンバーでもあります。彼は食品会社とフードバンクの両方をよく理解しており、彼を指導者として迎えられたことはとても幸運です。

モルガン・スタンレーとセカンドハーベストジャパン：長期投資の新しいかたち

文章：パメラ・ラバシオ

長期投資の新しいかたち—この言葉が、セカンドハーベストジャパンと日本におけるモルガン・スタンレーがこれまでに築いてきた関係を最も良く表現しています。セカンドハーベストジャパンが設立してまだ間もない頃、また、モルガン・スタンレーが日本の企業としての責任を担い、ボランティア活動を始動させようとしていた頃、セカンドハーベストジャパンこそ、その長期投資の活動に協力すべき団体だとモルガン・スタンレーの当時社員であった山田裕美子さんが会社役員に進言したのです。

提案はすぐさま行動に移され、それ以来モルガン・スタンレーは常にセカンドハーベストジャパンの頼れる、そして協力的な資金援助面での“大黒柱”であり、資金援助面以外にも多方面において活動を行動で支える、いわば“活動世話役人”でありつづけています。彼らの活動の一例を以下の表にまとめてみました。



他者をインスパイア(感化)する熱意 モルガン・スタンレーの従業員が、土曜の炊き出し活動に参加しました。写真：パトリシア・デッカー

モルガン・スタンレー日本支社貢献の一例一覧

目指すもの	具体的に行っていること
セカンドハーベストジャパンの通常業務の運営を保証する“定期収入”をうみだす	会社が同額の寄付金をマッチングさせて提供することで社員による定期的な寄付を促す。
会社での習慣化した毎日を越えて物事を見るように社員に呼びかけ、同時にチームスピリットを養う。	会社のチームをまとめ、セカンドハーベストジャパンの土曜日ボランティア(上野公園での食料配給)に参加する。 付加価値：慈善活動への貢献と新鮮な空気の中での運動！
セカンドハーベストジャパンの通常業務を向上させ、もしくは支えるために、特別基金を設ける	FIT チャリティ・ラン 2005、2006 を行ったように、資金集めのイベント設立に協力する。[1]
違った形での“投資収益”を有益に使う。例えば食品会社のご好意でいただいた食品サンプルや、お礼の贈答品など。	セカンドハーベストジャパンの支援プログラムであるハーベスト・パントリーから食料を定期的に受給している家族や個人は、皆感謝の意を表している。

[1] Source: <http://www.fitforcharity.org/home-ja.htm>

次のページへ



モルガン・スタンレーとセカンドハーベストジャパンの今までの関係の中で経験した印象的な出来事は、ある種の“廃棄物処理”の機会に起きました。モルガン・スタンレーがとある京都のホテルを買収した際、そのホテルの全てを一新させるために、室内装飾品を全て処分しなければなりません。ほとんどの物が廃棄される運命にありましたが、なかには、業務用サイズの台所用品、ベッド、毛布などまだ捨てるにはもったいない、状態のとてもよいものもあり、それらは再利用される事になったのです。

ベッドや毛布はセカンドハーベストジャパンが食料を提供している福祉団体へ送られ、団体に登録されている人々のもとへ届けられました。ホテルのキッチンで使われていた業務用サイズの鍋は新たな活躍の場で好評を博しています。というのも、セカンドハーベストジャパンが毎週上野公園で行っている食料供給に、温かい食事を求めて我慢強く列に並ぶ500人以上の公園野宿者に供給する食事を用意するために、今やなくてはならない存在となっているからです。



みんな笑顔で ボランティアたちは、上野公園で配給に並ぶ人たちと冗談を言ったりして笑顔を交わしています。

フードバンクスタッフの一日

文章: ダミオン・マニングス

2HJの忙しい木曜日の朝10時。今日は日本で最初のフードバンクで普段の日どんな事が行われているかを見るためここに来た。理事長のチャールズ・マクジルトンが、Eメールで冷凍食品の配達の手配をしている。ハーベストパントリーのコーディネーターであるミッシェル・ライアンは、レシートの照合を行っている。事務局長の和田裕介は、夢中になってコンピューターのキーボードを叩いている。

「毎日が異なります」とミッシェルは言う。仕事の内容は、ドナー企業に対するプレゼンテーション、メディアのインタビュー、緊急食料(主要な米や味噌などの食品)の配達などであり、その目的は「困っている人が自立できるように助ける」ためである。

和田が、鳴っている電話を取る。誰かが、また食品を寄付したいということだ。ミッシェルが電話に出る。



生活のスパイス 典型的な一日において仕事のバリエーションに事欠くことはありません。2HJの最初の専従スタッフである和田裕介とミッシェル・ライアンも同意します。写真: ダミオン・マニングス

すぐに、パートタイムの運転手であるデイビッド・アダムスが出勤し、準備をしたと思うと、コストコにパンや生鮮野菜の寄付を引き取るために出発した。全員が自信を持っている。

次のページへ



この日の計画のリスト

チャールズの最初の用事は、銀行でキャッシュカードをより分け税金や請求書、給与などの支払いを行う。午後には、千葉の児童養護施設 2 箇所に配達を行う予定だ。AERA 誌のカメラマンとの写真撮影も予定に入っている。



倉庫での仕事 デビッドが、食糧の引き取りと配達を終えて、倉庫を整理しています。
写真:ダミアン・マニングス

ミッシェルは、事務作業を進めている。午後には、コミュニティベースのNPOであるハンズオン東京のボランティアが来て食料品パッケージ(缶詰やジュース、乾物などを詰めた箱)の準備を手伝うことになっている。

和田は、先頭を切って都内の配達を行う。

2HJ のスタッフ達は、仕事をしながら話をしてくれた。テレビ東京の3月の番組で2HJが取り上げられ話題になり、この組織が対応できる目一杯までの多くの新しい機会に恵まれた。「2HJの第一の優先事項は、関係作りであって、単に寄付を得ることではありません」とチャールズと言う。

グラマラスな昼前

AERAのカメラマンは早めに来た。カメラを準備するとどんどん撮っていく。

フリーランスの記者である大原悦子は、近いところに住んでいる。大原は、フードバンク活動と2HJについての本を執筆している。2HJの新しいパンフレットの校正刷りのチェックを行う。

デイビッドがコストコから帰ってきた。外に集まり、チャールズが届いたばかりの新鮮な食品を前にポーズをとっているのを目撃する。カメラマンは和田を誘導して、写真の中に入れ彼らの誠実な笑顔をつえた。

チャールズが出発し、和田とデイビッドは午後の配達に向けて車に食品を積み始めた。事務所の中では、大原とミッシェルが話している。さあ、お昼だ。

和田とデイビッドと一緒に午後の配達に向かう

和田が、ナビをチェックする。デイビッドが助手席に乗る。私は、食品とともに後席に乗った。デイビッドは、2HJが月に2回配達を行う女性シェルターへの道を覚えることになっている。

配達のコーディネートに加えて、和田は2HJの既存もしくは潜在的な日本企業ドナーとの関係構築に努力している。彼は、アメリカでのフードバンクに関する研修と日本でのメディアトレーニング(広報のコンサルティング会社である、ギャビンアンダーソン社からの無償サービス)から「2HJの将来に向けての良い目標」を学んだと言う。

到着すると、陽気な女性たちが出てきて、パンやスープ、ミートソース、パスタソース、ジュースなどの食品の積み下ろしを手伝う。彼女たちは、おいしそうなお菓子やクッキーを見て、喜びの歓声をあげた。

車は、積荷を半分降ろして午後の渋滞の中、事務所に戻った。

事務所にて

チャールズは、まだ児童養護施設で食品の配達を行っている。食品パッケージは、発送の準備が出来た。デイビッドは、音楽をバックグラウンドに倉庫の整理をしている。デイビッドは、「7年日本企業で働いた後だから、2HJはとて素晴らしいベースで仕事ができる」と認める。

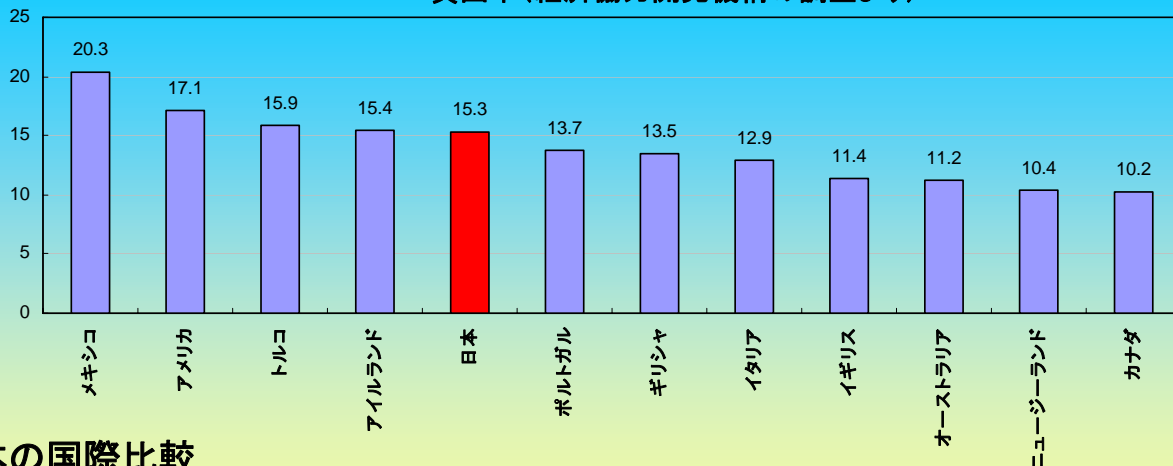
遅くなってきたので、スタッフに感謝を述べ、上野公園での炊き出しを手伝うと約束した。炊き出しのポテトサラダは、とても有名だと聞いた。さぞおいしいのだろう。



2HJ ひと口ニュース（最新の出来事）

- 2HJ が、テレビ東京の「ガイアの夜明け」で取り上げられました(3月24日)
- 理事長職が、無給から有給に変更されました。(4月1日)
- チャールズ・マクジルトンが、テキサスのサンアントニオにてグローバルフード・バンキング・ネットワークの研修を一週間受けてきました。(5月7日～11日)
- 2HJ は、グローバル・フードバンキング・ネットワークの正会員申請をおこないました。(5月19日)
- デイビッド・アダムズが、パートタイム運転手として採用されました。(5月17日)
- 2HJ が、日本の食品企業を対象にドナーミーティングを開催しました。(5月24日)
- 秋元健二が、渉外担当として採用されました。(5月14日)
- ニュー スキン ジャパン株式会社から、2006年3月から2007年3月にかけて総額2,450万円の寄付をいただきました。
- リコー株式会社から、上野公園の炊き出し活動に使うtentのために、20万円の寄付をいただくことになりました。
- チャールズ・マクジルトンと和田裕介が、NHKのわくわくラジオに出演しました。(6月20日)
- 名古屋と大阪の施設などに、1.5トンの食品を配送しました。(6月4日)
- 大阪、神戸、宮崎、福岡の施設に約4トンの食品を配送しました。(6月11日、12日)
- チャールズ・マクジルトンと和田裕介が、ニュー スキン ジャパン株式会社にて、フォース・フォー・グッドデーの一環として、ディストリビューターの方に向けてプレゼンテーションをおこないました。(6月13日)
- チャールズ・マクジルトンが、パン菓新聞社の60周年記念式典にて150社の代表の前でプレゼンテーションを行いました。(6月15日)
- チャールズ・マクジルトンが、CSR や貧困回避、自立成長、ソーシャルベンチャーといったことを対象にするビジョン・ハウス・クラブの開始に合わせて、HRIにて30社の代表の前でプレゼンテーションを行いました。(6月16日)

貧困率(経済協力開発機構の調査より)



日本の国際比較

日本の貧困率は、OECD(経済協力開発機構)加盟国の中でワースト5位です。日本の人口の15.3%(およそ2000万人)もの人たちが貧困線(年収にするとおよそ240万円以下)より下で生活していることとなります。これらの多くの人たちはフードセキュリティを欠いていることが予想されます。セカンドハーベスト ジャパンはこれを少しでも変えていくために努力しています。(出典:「OECD 諸国における所得分配と貧困」の「OECD ワーキング・レポート22」)

作製協力

編集長:パトリシア・デッカー 記者:チャールズ・マクジルトン、ダミオン・マニングス、大原悦子、ハントリー・ニコラス、パメラ・ラバシオ 写真提供:ダミオン・マニングス、ハントリー・ニコラス、パトリシア・デッカー、パメラ・ラバシオ、ビビアン・チャン 翻訳/編集:奥村友子、ダックス・プロディップ、長岡洋人、ハントリー・ニコラス、森山啓子、パメラ・ラバシオ、和田裕介 デザイン/レイアウト:ダックス・プロディップ

パートナーの皆様への感謝

主な食糧提供企業:コストコ ホールセール ◆ ニチレイ ◆ CP ◆ ハイイツ日本 ◆ マスターフーズ ◆ Eco Business ◆ ひかり味噌 ◆ テング ナチュラル フーズ ◆ Fujimamas ◆ ネスレ ジャパン ◆ Foreign Buyers Club ◆ 有限会社 ファー・イースト・トレーダー ◆ デリカフーズ株式会社 ◆ キューピー株式会社 ◆ ケンコーマヨネーズ株式会社 ◆ 株式会社鮎忠 ◆ 株式会社山形屋海苔店 ◆ エグザクト株式会社 ◆ 株式会社カーブスジャパン ◆ ハーゲンダッツジャパン株式会社 ◆ 日本アンカー株式会社 ◆ 株式会社壺番屋 ◆ 大和証券株式会社 ◆ 新光証券株式会社 寄付・出資協力企業:リーマン・ブラザーズ ◆ モルガン・スタンレー ◆ 在日アメリカ商工会議所 ◆ ニュー スキン ジャパン ◆ FIT for Charity ◆ ステート・ストリート ◆ Tokyo American Club Women's Group ◆ コストコ ◆ アリサンオーガニックセンター ◆ グレディ・スイス・ファースト・ポスト ◆ Mr. Kei Sato ◆ Seisen International School Hunger Fast ◆ Seisen International School Social Outreach ◆ 小百合の寮 ◆ Orrick ◆ 電通 ◆ フィリップモリス ◆ Black Ale Pub ◆ オルカ・ワイン 商用車提供:メルセデス・ベンツ・ファイナンス(株) ◆ ビーコン コミュニケーションズ 後援団体:ビーコン コミュニケーションズ ◆ ギャビン・アンダーソン・ジャパン ◆ 川崎陸送株式会社 ◆ Kuehne + Nagel ◆ Yokosuka Naval Base Chiefs' Association 教会:聖アルバンス教会 (St. Albans) ◆ 東京ユニオン教会 (Tokyo Union Church) ◆ ウエスト東京ユニオン教会 ◆ 六本木教会 学校:東京インターナショナル・スクール ◆ 清泉インターナショナル スクール ◆ アメリカン・スクール・イン・ジャパン ◆ 聖心会 (Sacred Heart) ◆ 西町インターナショナルスクール ◆ マリスト・ブラザーズ・インターナショナル・スクール ◆ 東京韓国学校 ◆ カネディアン・アカデミー